



郵便
報知新聞
 第五百七号

下總國相馬郡宿連寺村の百姓永妻
 小丘前を母と共へ今年七十才の極老
 をる昔の色香を返り咲色欲の迷い
 さめ日雨出入の戸張村大工の山立
 氏藏と六十八才五月の老漢と
 のつらゆ福をうへ終り先月八月
 夜被さるる手にさやと暖めら
 まる暖めつ面を包む煩冠り白髪頭
 の隠せさなくねぬりの浮名あて怪の小
 兵衛の大に魂消引戻さんと為し
 る中へ聞入さるる終投所訴出
 戸長青柳氏の理解し依り思ひ切
 らねぬ高砂の尉と焼との血の涙河をく
 せんの世を誓ひ潮、別はくし、八聽人
 哀の催さるる気のお母笑ひを為さる



金精堂

大種芳
 彫

